「電気設備工事監理指針(平成25年版)」正誤表 (1刷対象)

ヘ゜ーシ゛	箇 所	誤	正
21	第1編1.1.3	③工事計画届出(受電電圧10kV未満の需要設備は不要) (最大電力1000kW以上又は受電電圧10kV以上のもの)	③工事計画届出(<mark>受電電圧10kV以上の需要設備</mark>)
	第1編 2.9.2(c)(2)	貫通口の上下方向の位置は、図2.9.2による。	貫通口の上下方向の位置は梁せい中心付近とし、貫通口下端から梁下端までのD/3(Dは梁せい)以内には、貫通口を設けてはならない(図2.9.2)。
	第1編 2.9.2(c)(2) 図2.9.2	(イ)梁貫通の大きさ及び位置(単位mm)	図2.9.2 梁貫通の大きさ及び位置
	第1編 2.9.2(c)(2) 図2.9.2	(ロ)梁貫通の位置	図2.9.3 梁貫通の位置
96		中央部分 中央部分 中央部分 「AD以下 「SOO D C 700 d ≥ 175 TOO D C 900 d ≥ 200 900 ⊆ D d ≥ 250 「小梁貫通の大きな及び位置(単位mm) (ロ)梁貫通の位置	中心部分 D/3以上 D/3以上 D/3以上 上 D/3以上 上 D/3以上
		図2.9.2 梁貫通の大きさ及び位置	図2.9.2 梁貫通の大きさ及び位置 図2.9.3 梁貫通の位置
	第1編 2.9.2(c)(3)	貫通口の中心位置の離隔は、柱及び直交する梁(小梁)の面から原則として、1.2D(梁せい)以上とする。	貫通口は、柱面から原則として、1.5D(Dは梁せい)以上離す。ただし、基礎梁及び壁付帯梁は除く(図2.9.3)。
155	第2編 1.4.4(a)	「標仕」1.4.4(a)に記載の蛍光ランブと適合する規格を、表1.4.3に示す。	「標仕」1.4.4(a)に記載の蛍光ランブ(コンパクト形のFHT形は除く)と適合する規格を、表1.4.3に示す。
363	第2編 2.10.1.2(2) 図2.10.1	3.0m以下	1.5m以下
379	第2編 2.11.6(a)	(a) 変圧器等の接地線は、コンククリート柱では建柱前に挿入しておく。 (b) 避雷器用接地は単独とし、接地線は電柱に沿って引下げる。また、地下0.75mから地表上2.5mまでの部分を硬質ビニル管(VE)等で保護する。	避雷器用接地は単独とし、接地線は電柱に沿って引下げる。また、地下0.75mから地表上2.5mまでの部分を硬質ビニル管(VE)等で保護する。
502	第3編2.1.1(a)(1) 図2.1.1内	☆「工事計画届出書」が必要なもの 受電電圧 新設 変更 (遮断器等) 6kV 22/33kV ○ ○ 66/77kV ○ ○ 注1. 受電電圧1万Vを超える需要設備は工事 計画届出書の提出が義務付けられている。 2. 遮断器等については受電用遮断器及び 容量100 000k/A以上の機器をいう。	☆「工事計画届出書」が必要なもの 受電電圧 新設 変更 (進断器等) 6kV 22/33kV ○ ○ 66/77kV ○ ○ 注1. 受電電圧10kV以上の需要設備は工事 計画届出書の提出が義務付けられている。 2. 進断器等については、第1編1.1.3表1.1.1 最後都注3.を参照

ページ	箇 所	誤	Œ
508	第3編2.1.2(c)	機器、導体等の据付け	接続部の締付確認
630	第5編1.7.4 「JEAC 9701」の抜粋	及ことで、表に、	大き 大き 大き 大き 大き 大き 大き 大き
708	第6編1.1.1(23)(n) JCS 5505:12「環境配 慮形光ファイバーケー ブル」の抜粋の枠外下 部に追加		(注)「標仕」で規定しているものは、「環境配慮形耐燃性光ファイバーケーブル(ECO-OP/F)である。
759	第6編1.6.5(b)(イ)4行目 及び表1.6.9の表題	JT-729:06	JT-G729:06
777	第6編1.8.4(d)表1.8.8の 名称欄WXGA及び WUXGAで、「標仕」に よる区分欄	A形 C形	Ξ

ヘ゜ーシ゛	箇 所	誤	正
797	第6編1.11.1(b)(2)(ハ)図 1.11.2 CS右旋円偏波 のチャンネル及び凡例	2、1、6、8、10、・・・ CS右旋円偏波 : スカパー!e2	2、4、6、8、10、・・・ CS右旋円偏波 : スカパー!
803	第6編1.12.2(b)	一般的に、 <mark>VHF周波数帯(90~222MHz)</mark> 、UHF周波数帯470~770MHz)、 <mark>VHF/UHF周波数帯</mark> を使用する伝送システムが使用されている。	一般的に、UHF周波数帯470~770MHz)を使用する伝送システムが使用されている。
861	第6編2.13.1(b)(3)表 2.13.3「配線部材の性 能」の配線規格	TIA-568-C:09 TIA-568-B:01	TIA-568-C:09(1) TIA-568-B:01(2)
881	第6編2.19.1(a)(3)	受信可能な電界強度は、UHFデジタルで $47 ext{dB}\mu ext{V/m以上である}$ 。	受信可能な電界強度は、UHFデジタルで $60 ext{dB}\mu ext{V/m以上}$ である。
1083	資料9 9.2(2)	$R = \sqrt{(60 - \theta/30)} = 0.82$	$R = \sqrt{(60 - \theta)/30} = 0.82$